本書を推薦する理由

私は東京医科歯科大学を卒業後約2年で臨床に専念すべく大学を辞し，東京逓信病院に勤務した．私がアメリカ留学から帰国した後，同院に大学から助けに来ていただいたのが，本書の著者の大玉信一先生である．ともに診療，臨床研究に苦労した仲間であり，その当時から二人とも科学的視点をもった臨床医になろうと努力してきた．

本書はその頃私たちがめざしていた，臨床医の理想像になるための必携の書と言える．

本書の特徴は，先見性のある項目立てのわかりやすさである．生活習慣病，日常的によくある病気，症状からみた病気，やや専門性の高い病気，臨床検査・検診，注意が必要な薬剤，予防接種とワクチン，診断書の例，と系統的かつ総括的に分類されており，症状，検査値異常，あるいは病名から，病気の理解を深めることが可能である．

まず，病気の成り立ちを理解することで適切な予防策が可能となる．次に病気が発症した際は病態を理解することにより，医師としての立場から専門的助言，治療介入をする必要がある．病態を理解すれば，生活に関する患者さんへの助言内容は理に適うことになる．

治療介入も薬物療法を行う場合に，単に個々の症状に対応するのではなく，病態を理解すると適切な薬剤選択が可能となり，症状改善も早い．本書は多様な疾患についてポイントを重視して読みやすく簡潔な病態記載と薬剤処方の選び方に留意しており，実地医家に都合が良い．

私は現在も短時間ながら外来を行っているが，いわゆる町の開業医の方々の処方について，薬剤の重複や多数薬剤投与に疑問を感じることは多い．これらは病態を理解せずに個々の症状に対応して薬剤処方をしていることに問題があると考えられる．

本書では，薬剤の選択に際して誤りがないように，病態に則して選んだ理由をくわしく説明している．また，薬剤も系統別に整理されており，一般名と商品名の両者が記載されているのでわかりやすい．

患者さんへの説明についても，現場での実状に即してコツが記載されており，実地医家には示唆に富む内容である．

予防接種とワクチンについては，種々の意見を総合的に勘案して結論づけており，実地医家は患者さんに説明するのに便利である．

大学や病院の総合診療医だけでなく，町で開業されている先生方にもぜひご一読をお薦めしたい．

かく言う私も現在は論文を引用して診療を行っている現状から，適切な説明が得られる本書を必要としている．

2024年7月

東京医科歯科大学 前学長
東京医科歯科大学 呼吸器内科 名誉教授
吉澤靖之